

秋の学習交流会は『新型インフルエンザ対策』 埼玉喘息患者会「わっくら」

埼玉「わっくら」は11月7日(土)午後、埼玉労働会館で秋の勉強会を開きました。この日は立冬の日とは思えないほど暖かで穏やかな天気。今回の学習交流会の参加者は新聞のお知らせを見て参加した人を含め17人でした。



宮岡先生の明るい語りで和やかな会場

今回の講師は埼玉協同病院の呼吸器科医師・宮岡啓介先生。実際に先生の診察を受けている会員もいましたが、先生と初顔合わせの会員も多いことから、各参加者は自己紹介を兼ねた現在の自己症状を中心に発言しました。これは先生に参加者の状態を理解していただき、講演を進める時の参考にしてもらうためです。

▽ 講演は小咄から

宮岡先生はかなり明るい方で、はじめたお話は漫談家・綾小路きみまろさんの小咄紹介からという、意外なスタートでした。《一生懸命働いて、夫を支え、今日まで頑張っていらっしゃった中高年の皆さまでございます。中高年には生きる権利があるのです。ただ生きる資格がないのです。いいですか、これから大事に生きていただきたいのです。今まで生きてきた時間よりもこれからの時間のほうが短いのです。中高年はおしっこも近いけど天国も近い。くよくよ生きることなんかなんにもない。人間なんておしめで始まりおしめで終わる。それでおしめ〜だ。》・・・が出だして、いくつかの“きみまろライブ”を紹介しました。先生がこうした小咄からはじめた訳は、病気を持っていても気をつけていれば元気よく生きられる、こころも健康にして、身体を大事に生き続けてください、の意を別の言い方で伝えようとしているのだと思いました……………。

▽ 新型インフルエンザの症状

こうした話で参加者のこころを軽くしたあと、豚型新型インフルエンザの話に移り、その概要と特性等について説明がありました(この部分は「わかば」紙面で清水先生が度々掲載されているので省略します)。

そしてこの新型の症状としてあらわれるのは、

- ①突然の高熱(38度以上)、咳、咽頭痛、倦怠感に加えて、鼻汁・鼻閉、頭痛等があり、季節性インフルエンザに似ていること。
- ②ただし、副作用では季節性インフルエンザに比べ、下痢等の消化器症状が多いという人もいるが、担当したケースでは熱だけという患者の方が少なくなかったこと。

▽ 重症化する時の症状

また、重症化する時の症状としては、

①呼吸困難や息切れがある ②胸の痛みが続く ③嘔吐や下痢が続く ④3日以上発熱が続いている ⑤病状が長引いて悪化してきた

の5点をあげ、これらに該当する時は速やかに医師にかかることとしています。

とくに①慢性呼吸器疾患 ②糖尿病などの代謝性疾患 ③ステロイド内服などによる免疫機能不全 ④慢性心疾患 ⑤腎機能障害 の持病がある人は新型インフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと警告しました。

▽ 不安や疑問に答えて

こうしたお話の後の質疑応答では①予防接種は新型、季節性とも受けた方がよいのか ②それはどの位の間隔をあげたらよいか ③新型のワクチンの副作用は ④接種の効果はどの位続くの ④肺炎球菌ワクチンの安全性は ⑥プレドニンを増量服用している場合は など主に予防接種関連の質問が出されました。

このような質問に宮岡先生は、予防接種により症状が軽症ですむのでできるだけ受けた方がよいこと、うっても副作用が出るのは1時間以内なので1時間少しの時間、病院に居ればよいこと。新型と季節性接種の間隔は1週間あければ次の接種は大丈夫であること。また、肺炎球菌ワクチンはインフルエンザ予防接種後、4週間経てばOK。プレドニンを増量内服している場合などは内服を終えてから1日あければ接種は可能であること。さらに、接種の副作用については、接種後熱が出たりするのは身体が抗体を作るためで、インフルエンザが発症したのではないこと、などを答えて下さいました。また、治療にはタミフルやリレンザが使われるが、リレンザは粉末噴霧式。このため皆さんはむせたりする可能性があるのでタミフルの方がよい人もいるのでは、との助言をいただきました。

新型インフルエンザについては、宮岡先生の説明と会場での質疑応答により、参加者全員が納得でき、これまで感じていた不安や疑問は解消されました。

▽ 不安消えて接種申し込み

この会に参加した会員のひとは不安が解消され早速新型インフルエンザ予防接種を19日に受けたそうで、宮岡先生のお話は大いに効果がありました。なお、この会員によると「2回目の接種は必要ありません」と病院で言われたそうです。

こうした行動がとれたのも、折角の休日をわたしたちの不安などを解決するため講演して下さった宮岡先生のおかげです。ありがとうございました。

真剣に学ぶ参加者



(杉山)